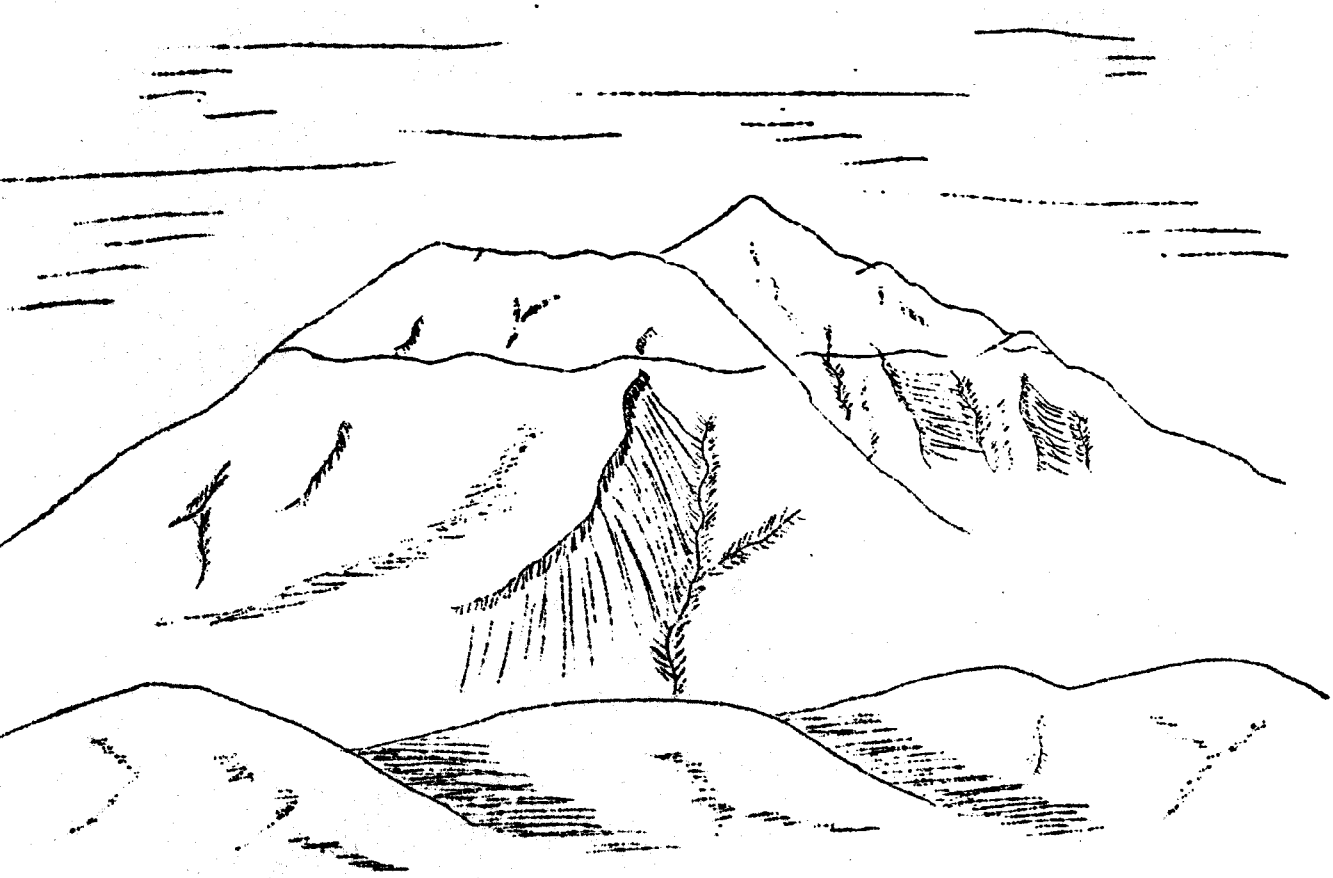
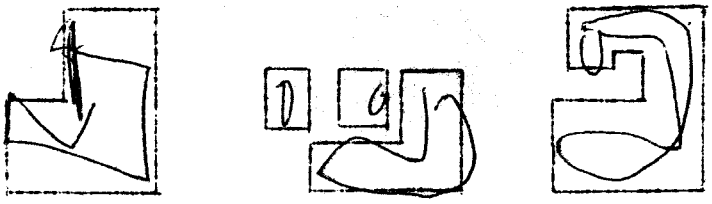
こだま





第4号

その火、絶やすな
ファイナル・ファイア

キャンプチーフ
仲野太郎

8月30日夜、今年のファイナルファイアーは、去年にも増して意義あるファイアであった。メインエベントでは、17人のメンバーを送るとともに、かずかずの思い出をきざんで、井げたの炎の中に、融かしこんでいった。涙にむせんでキャンパーを送り出した日もあった。にぎやかに、そして尽きぬ思いをこめて送り出した日もあった。いま、振りかえると、フラッシュランプをたいたように、いろいろな思い出のかげが、脳裏をかすめる。しかし、たしかに、思い出は懐しいものではあるが、過去のものだ。私たちは、いつまでも過去の亡霊に悩まされてはならない。いつでも、前をみつめて、歩みつづけよう。

ファイナルファイアの火は、8月30日の夜、井げたの中に消えていったが、われわれの心の中には、いつまでも、青春の炎、善意の炎、献身の炎として燃えつづけているはずだ。はからずも、君たちの総会で、全体ミーティングの復活が要求された。今年のキャンプでは、カウンセラー諸君の自発活動を促すため、試行錯誤とは知りつつも、CD→PDを中心とした動きにもっていった。しかし、そこで、結果的に起きてきたのが全体ミーティングの復活ということである。3期生の諸君たちには、全体ミーティングの感じが、つかみにくいかもしれない。昨年の夏、チーフからカウンセラーまで、全員一体となって全力投球した感激は、1・2期生の人たちは体で感じているのだろう。いま、自分が抱いている疑問、それが、キャンパーのことであれ、同僚のことであれ、先輩のことであれ、テクニックのことであれ、それを早期に解決する場が、全体ミーティングであった。

今年の場合、CD、PDに若干、荷がかかりすぎたかもしれない。しかし、組織キャンプである以上、当然CD→PDが中心となってまわしてゆく。これが本質なのである。試行錯誤でやってみて、まだまだウチのキャンプでは、少々冒険であったようだ。十分熟して

な、年っ
んが来思
みの。と
、るうう
け得よ
か向心せ
を仕とさ
向に目活
時う役寝
しよのを
少るーグ
うけザン
もゆーィ
。てアテ
うっフー
ろやドミ
あくッ体
でなゴ全
のとるる
たこあ
っうでの
か感人実
なア掛、
いが仕は

ーが字ンの
ケた数ヤー
ンっいキパ
アあしにン
らでわくヤ
か中くとキ
ーめ、の
パとれで年
ンまず中今
ヤりいの
キ取。そで
、をた、字
中れめて数
プそかしの
ン、つとてうンあので午
キ般字すつみプ当向3は、
の先数表にてン適がの
年。の発ムっヤ「御」う
今た。略どうどきは時るいる。
概ばグだーれのぎとれ起寝いしのあにヤン自かかにーがをかがにのだ辞
と後口をずこトすると、就とろいで象キエ、たう後う「胸たよういく讀
、っ向ま、う早ぎけた、%そど後印。りが来ろ最せい、っあさててど
トやはプ傾、がア「す受まと39%おっ前るオるへだ、ンしとあま。大しな

る、が、早もあ
い62%）が、と
なが時りて
時）12ともる
4向当～つ
～ず適（10わる
2ま「（わ
後で
午%。トす
%るウ居
（%あアも
向がで。て
「起御」うるま
はがで、れ
）時まれ、で
10時
後何しそ
（6
午
向のは、。
時間のな向たこプーがに
床時うく時っのンテ炊ら。
ヤンヤ自かかにーがをかがにのだ辞
ップ5は、たう後う「胸たよういく讀
%そど後印。りが来ろ最せい、っあさててど
おっ前るオるへだ、ンしとあま。大しな

対る」、の%
にぎかべ80
%すのタ
7早る、が
が「す向の
」、と時
る」
56%
うのいう
よいとと
で」いど
当当てつ
適適
「、「起御」
はがで
）時まれ、で
10時
後何しそ
（6
午
向のは、。
ップ5は、
たアン番
ンテ炊ら。
ヤンヤ自かかにーがをかがにのだ辞
ップ、目手
にづ
ーアに、
が50キなく
ムう%ャっり
と御ドい味
ルるを。味
ーやわ
はヒはおー
、コフ
次%スりう
あてい
ていン意
うづっャう
よっなキい
の、と、と
がしまは1%っとちま
る対・度81あ」持し。
あにた態がで見心心る
で」っ「の%意の感あ
向かあらも7望在でも
設うでかるが希現り見
る思%れすのるせ意
う18そとうすでくな
関どが。」い対ま会う
にて」第いとにつりよ
ーいあ次よ」ーいれの
うつまた」いう「た次
セにあし、るセ、い、
ン面まろしわンが「が
ウ導「、お対、ウち。」る
カ指%、に%かたいあ
、のる」12「人さも

心を心として素直に聞いてほしい。それが絶えず前進するカウンセラーの原動力源の一つであろう。

1. まじめな人たちだが、inからoutまで、べったり接触は過多である。部分指導希望者には部分指導にとどめられたい。
2. 自由をわれらに！
3. 希望者だけにつけるようにしてほしい。
4. もっと優しくしてほしい。
5. キャンプファイアのとき、もっと大きな声で歌ってください。
6. もっと話をして、遊んでほしい。
7. 食事を共にするなら、事前に言ってほしい。
（材料の関係などで……）

御岳キャンプ反省

高樋順一

夢のように過ぎ去った　御岳キャンプ!!
今はあの夏の忙しかった毎日がウソのようにここ休暇村の廻りは紅葉も終り、霊峰御岳も初雪に覆われ閑散とした日が続いている。
しかし、我々スタッフ一同は来年の本キャンに向い、既にその準備で頭の中はいっぱいである。NOCCの会も新役員の下に来キャンへの夢と希望とで全員がはりきっている事と察します。スタッフ一同も皆さんの活躍を期待している。
さて今年のキャンプを振りかえって見ると一期生・二期生はカウンセラーとしての使命をなんとなく理解してきたようだ。そして三期生は一つ一つが新しい事ばかりで大いに勉強になっただろう。8月30日のあの打上げの時、一応に皆が口にしたのは全体ミーティングの出来なかった事であるが、その前にカウンセラーとしてキャンプへの自己適合、スタッフとの関係、キャンパーの受け入れ方　等々を今一度初心にかえり、反省した時おのずと全体ミーティングの必要性の有無がわかると思う。

まずキャンプ生活に早く適合するよう努力する事。最初はあまりの変化に驚くほどであっても、慣れてしまえば、まるで何の抵抗も感じなくなる。喫茶店やキャンパスの片すみで過ごす一時のことなど昔のことのように忘れてしまい、新しい、スリルに満ちた生活への一歩を踏み出そうとしているのである。それは最善をつくして努力することでのみ獲得できる期待に満ちた新しい生活である。キャンプカウンセリングこそは仕事をうまくやりとげた喜びと、小さな子供たちのグループの純粋な愛と尊敬をかちえた喜びをもって終わる最上の経験である。

キャンパーがキャンプアウトの時に汚れた小さな手をカウンセラーの手に重ねて「来年もきっと来てくれるね、もし来てくれないと僕たちも来ないよ」とかわす言葉の一つ一つがカウンセラーにとって何よりの報いなのである。

キャンプデイレクターは多くの問題を心にとめて[illegible]かねばならないばかりでなく、重い責任をせおっているのであるから、カウンセラーは割り当てられた仕事は最も効果的な方法で、てきぱきと片づけ、ディレクターに余計な責任を負担させることのないように心がけなければならない。また一方、デイレクターは、誰に対してもいつも公平でなければならないし、キャンプ規則と同じように、キャンプの精神にも従わなければならない。必要な報告書は細部に渡るまで完全にし、すぐにとじておく習慣を身につけること。また備品が大切なこともいつも心に置いて、決して無駄にしたり、乱暴に扱ったりせず、補修はきちんとし、いつもきれいにしておくこと。

カウンセラーとして登録した以上は一人前の常識と判断力があるという上でのことであるから、小さなことなら自分で解決するのが当然であろう。一方、重大な問題のときは早くそれに気づかなければならない。自分の判断で決められない場合は直接デイレクターのところへ持っていくことである。

従って毎日の全体ミーティングの中でなくとも各グループミーティングの中で充実した討論をかわせばおのずから全体ミーティングの必要性は解消されるだろう。しかし、スタッフは毎日、スタッフ会議を

しているから、キャンプ場の動きはスタッフから、伝達されるはずである。今年のキャンプはカウンセラー自身が自主性を身につけたことに大いに成功したと思う一面、大変な冒険でもあった。来年の本キャンも運営方針は大差ないと思うから、カウンセラー諸君の活躍を期待します。
最後に、オフ・シーズンの訓練こそ本キャンでの活躍が撥揮されるのであるから、皆、頑張ってください。

ふりかえって見る事

2 chan

落葉松の金色に輝く紅葉も終わりに近づき、今御岳は刻一刻と冬の装いを見せ始めた今日このごろです。カウンセラー諸君が下山して、早いものでもう二ケ月がたちました。今年のキャンプ　本当にご苦労様でした。
ある人が『青春とは　若いというだけで幸である』と言っている。キャンプ中の諸君はこの言葉のように若いという幸せを体一杯に持ち若さをぶっつけて活動してきたと俺は思います。自分の青春の1ページとして……。
しかし、下山した諸君の現状はどうであろうか？キャンプ中に見せたファイトはどうしたのであろうか。諸君にはいろいろな悩みがあるだろう。俺はそれを知らない。知らないからこんな事が言えるのかもしれない。
俺は学生時代に学生ボランティアサークルというクラブで4年間キャンプ生活をボランテイアとして活動してきた。それは『キャンパーが俺に付いてこない、どうしたらいいんだろう』から始まり、『俺のキャンプ生活は今日で終わろうとしている。しかしこの4年間は、俺の厂史の中で輝いている。』で終わった。いや自信を持って言えるようになった。
現実には楽しい事ばかりではなかった。多くの悩み

を持った。そして今まで持ち続けているのもある。だが俺はとにかく4年間、その活動を続けてきた。大学生活はたったの4年間である。その4年間くらい続ける事が出来ないのなら、他の事にアタックしても何一つ出来ないのではないかと考えたからである。そして活動するからは精一杯する事が参加している者の義務ではないだろうかと。

長いキャンプ生活の中で俺が学んだ事はキャンプ技術はもちろんであるが、その他に人と人との接し合いである。人は美しい物しかふだんは見せない。しかし長いキャンプ生活の中では素直な自分を出してくる。そんな面でキャンプは人生の修養道場と思うし、又そう教えられて来た。そして多くの悩みをその道場で持ち、又少しずつ解決してきた俺である。キャンプ中、ある先輩が『おまえは楽しんでキャンプをしている。確かに楽しくするのにこした事はない。しかし楽しいだけのキャンプ技術伝達じゃ、本当はいけないのじゃないか？　キャンパーのニードを一つでも知り満たしてやらなければ、少なくとも俺達はカウンセラーなんだろう。』と、その時ガクンときたね。どの班よりも俺の班が一番乗ってたし、俺は得意になってたんだ。

それ以来、どうしたらキャンパーのニードがつかみとれるかを悩みながら、現在にいたっている。今だに、これだ！という確立したものは無い。知れば知るほど　いや知ろうとするほど深いものだ。人間というやつは……。

すべてのカウンセラー諸君が私と同じであるとは決して思ったはいない。しかし何かを求めてこのカウンセラー活動を始めたんだろう。その求めようとした物は何であるかを　今一度見つめてみたら、どうであろうか

今年のキャンプを顧みて

今井由子

2年目、又は初めての御岳キャンプを終え、8月31日それぞれの想いを胸に秘めて御岳を降りた皆さんだと思います。

辛かったこと、悲しかったこと、くやしかったこと、楽しかったこと、皆さんはこの中のどのことを一番想い浮かべるでしょうか？　好きな事をやっているのですから楽しいはずですし、いろいろなキャンパーに接し、いろいろ経験するのですから、当然辛かったこと、悲しかったこと等あったと思います。この辛かったこと、悲しかったことがあったればこそ、来年こそは何とかと言う気持ちが湧いてくるのではないでしょうか。

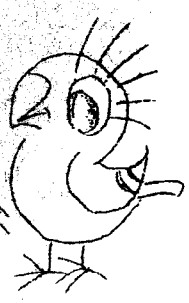
現実に満足している人は、何の進歩もありません。私がこんな事を書いたのは、今年のキャンプを見ていて、去年の慣れで今年のキャンプをやっている。全体的にそんな感じがしたからです。

人間、誰しも何年かやっていると、その慣れだけで物事を片付けてしまうところが見受けられます。あたりさわりのないようにやっていれば、たしかに事は済んで行くでしょうが、果たしてその後に残るものは何でしょう。「ああ、やった」という満足感はあろうはずはないでしょうし、辛かった、悲しかったという、歩に必要な反省材料もでてこないでしょう。来年も、もしこのようなことであれば、何の為のキャンプ指導か意味のないキャンプ場になってしまうと思います。

この慣れは、私自身にも言えることなのです。来年、3年目、2年目のキャンプとするときは、新鮮な気持ちで何でもぶつかってみましょう。いやな事でも逃げないで。皆さんは若いのです……私も若いと言うことは、それだけ行動できると言うことです。へたに何でもわかったようなふりをしないで不満があったらぶっつけ、話し合う、やってみる、反省する、……それが若さの特権だと思いますが……

「人生は　人を知って自分を発見しうづける旅路である。　そのためには、まず、人に会わなければならない。　まず会うむずかしさにはじまって　別れるむずかしさまで……。」　長谷川鏡次

この流れゆく
はっぱをどう
思うか。



名古屋市民御岳休暇村
キャンプ・カウンセラーの会

'74 12.7 2:45 A.M. ―総務部―